



BOOMERANG

ボーイスカウト川崎地区賛助会は1984年に川崎地区協議会の財政支援を目的として、川崎地区の有志により設立されました。この会報「ブーメラン」は当会の歴史と活動内容を広く皆様へご紹介する目的で発行しているものです。また、賛助会の運営趣旨にご賛同いただける方へのご入会促進メッセージでもあります。この機会に是非ご入会を検討いただければ幸いです。

【特集 青少年に必要な国際交流活動】 ～ボルチモアとの交流～

■特集にあたって

賛助会 会長 木村耕三



1986年 第2回派遣隊 来日

10月29日の朝日新聞に次の記事が掲載されていました。
見出しは「日本にこだわらない」「若い才能海外のトップ大学へ」です。
日本経済は平成に入ってからバブル景気の絶頂を迎え、その崩壊後大手金融、企業が相次いで破綻し「失われた20年」といわれる長期停滞に沈みました。

このように地盤低下した日本から出ていく若者が最近増えてきています。アメリカの有名大学に進学し、アメリカの大手企業に就職する若者が増え、日本企業もグローバル戦略の旗のもとに海外進出は当たり前の社会になっています。このような傾向は今後ますます加速されます。
青少年の時代から海外と交流し経験を積むことは必至の時代になりました。ボーイスカウト川崎地区のスカウト達は青少年の時代に海外との交流ができる恵まれた環境にあります。

それは先人のお蔭で、ボルチモアとの交流が30年以上継続されているからです。特に本交流にご尽力いただいている川崎地区の関係者はもとより、米国連盟・ボルチモア協議会のMr. Howard Rutherford、Mr. Dan Young、Mr. Gregory Oates、Ms. Marilyn Cox、Ms. Connie Shannon、Mr. Mike Neuman、Mr. Todd Emmons など多くの方々の並々ならぬご厚意には感謝をしなければなりません。

1985年に第1回の交流（ボルチモアへ派遣）が始まり32年になりますが、今後も将来を担うスカウトの成長を願い末永く本交流が継続するよう皆さんと共に努力を致す所存でございます。

末筆ではございますがボルチモア市・川崎市姉妹都市委員会の塩田芳信様ならびにBaltimore Crew 3776 団 通訳担当のベスト加島聡子様から寄稿頂き厚く御礼申し上げます。

■第26回ボルチモア派遣報告

派遣団 隊長：境 紳隆
(川崎地区 地区委員長)

1985年に始まったボルチモア市・川崎市のスカウト交流派遣隊も今回で26回目となりました。今回は、川崎市の派遣隊がボルチモア市を訪問する番で、高校生主体のスカウト10名・指導者5名が参加しました。



7月28日に成田を出発、13時間程のフライトを経てワシントンのダレス空港に到着しました。同日ホストファミリーとの対面式を行い、各々ホームステイ先へ。いよいよ2週間余に渡る滞在が始まります。



今回の合同プログラムの概要は次の通りです。7月29日にウェルカムパーティー、31日NY観光、8月1日はボルチモア市長を表敬訪問し、福田市長の親書をお渡ししました。夜にはボルチモア・オリオールズの球場見学と試合観戦。これまでと同様試合開始前のセレモニーで7名（日本4名、米国3名）のスカウトが国旗のカラーガードを務めました。

8月2日から6日は、ボルチモア連盟の所有する広大な「ブロードクリーク」キャンプ場でのキャンプです。ホストスカウトと二人で一つのテントに宿泊し、様々なアクティビティを体験しました。アーチェリー・ボルダリング、セールボートや射的、バギーの運転等、日本ではなかなか体験できない活動を楽しみました。

8日は、南北戦争の激戦地として著名なハーパズフェリーというボルチモア市西方の街へ行き、歴史探訪を行うと共に川でカヤッキングを楽しみました。



11日はいよいよ「さよならパーティー」です。お世話になった方々に感謝を込めて日本の料理を作り味わって戴きました。幸い皆好評でした。合同プログラムの無い日はホストファミリーの方々いろいろと趣向を凝らして歓待して下さいました。滞在期間中ホストスカウト&リーダーはいつも私たちと一緒に居て下さいました。来年は精一杯恩返しに努めたいと思います。



■ボルチモア川崎姉妹都市委員会からのご挨拶 (2017年11月23日米国感謝祭の折に)

共同代表 塩田芳信



ボーイスカウト川崎地区賛助会のご協力者の皆様、姉妹都市委員会（BKSCC）の共同代表を妻のKathleenと仰せつかっている塩田芳信です。

姉妹都市活動は、アイゼンハワー大統領が市民レベルでの親善外交の樹立を目的として1956年に創設

されました。

当委員会の設立は1979年に伊藤三郎市長とWilliam Donald Schaefer市長の肝いりで、共通項である港湾都市を生かして姉妹都市締結した時に遡ります。

1985年から始まったスカウト交流は、両市のスカウトリーダー達の類い希な協力関係のおかげで、今日まで継続され、多数の若者のその後の人生に有意義な影響を及ぼしています。私のスカウト交流への関わりは、姉妹都市委員会に参加した数年前から始まったにすぎませんが、川崎派遣団のマンハッタン訪問に過去3回お付き合いさせて頂いた他、派遣団歓迎会、市長表敬訪問並びに派遣団送迎会に参加させて頂いています。



当委員会の創設者である中澤医師は奥様共々、派遣団滞在中の医療体制の責任者として隊員・リーダーの健康管理に貢献しており、また当委員会のスーパーボランティア

アー、フミコ・キャンベルやヤエコ&ケン・スティアー夫妻、並びに過去の委員会代表の皆様等の尽力のお陰で、今後ともこの交流が継続されるのは確実です。昨年当時ジョンズ・ホプキンス大での研究終了を控えた米山喜平医師が当委員会へご参加下さったお陰で、聖マリアンナ医科大学が川崎側でのスカウト健康管理を今後お引き受け下さることになりました。



40周年記念へ向けた準備活動に、Crew 3776のリーダーやスカウト達が積極的にご参加頂いている事を最後にご報告させていただきます。

11月11日は今季最寒(氷点下5度)の日でしたが市立公園を緑化する為花木39本の植樹を行なう行事に協力頂きました。また18日には「盆栽の午後」



A pair of powerful helpers:

Crew member Nasirat and crew leader Ms. Z (Zainab Boone-Kukoi).

という資金募集活動にもご協力を頂きました。遠方にお住まいのサトコ・カジマ・ベストさんは両行事へご参加下さいました。

2018年が良い年となる様お祈り致しております。

注) :

Crew 3776はボルチモア協議会の公認する川崎市との姉妹都市交流のベンチャースカウト隊です。

■ボルチモア=川崎スカウト交流に寄せて

ベスト加島聡子 Satoko Kajima Best
ボルチモア・クルー3776 団 通訳担当



生まれも育ちも神奈川県。小学校3年で入団して以来、所属団は変わりましたがずっとガールスカウト活動に携わっています。また、カブ隊の副長として、約20年間神奈川でボーイスカウト活動にも携わっていました。

アメリカに移住して間もない2007年、当時の職場の同僚を通じ、スカウト交流キャンプの通訳を探しているというダン・ヤング氏を紹介していただき、夫の実家がキャンプ場に比較的近いことも幸いし、ボルチモア側がホスト(受け入れ)の年は欠かさず参加させていただくようになりました。交流キャンプ



が始まるとスーッと入ってくる私の存在は川崎派遣団の皆さんには「七不思議」だったようで、「ところで貴女はどなたでしょう?」と改めて尋ねられたのはかなり

最近のことで(笑)。

私も、高校2年の夏にガールスカウトの海外派遣でアメリカに1か月滞在した経験から、十代の多感な時期にスカウト達が異文化に触れる体験をすることは人生に大きな意味を持つと考えています。スカウ

ティングという共通点で他国の仲間と友情を育むことが出来るのは本当に得難い財産です。川崎のスカウトの皆さんがこの素晴らしい交流の財産を末永く受け継がれていくことを願っております。

■五感を大事に

国際委員長 濱田雅弘
(川崎地区副協議会長)

ボルチモアのBSとの交流派遣プログラムは、関係者の努力と支援者の協力を得て、30年間継続した活動へと成長した。海外派遣が特殊な時代から一般化された今でも、スカウトの成長期にさまざまな国外での体験は、スカウト自身の財産となる。

また、同時にホストファミリーとして国内で受け入れるプログラムは、異文化・生活様式の違いを乗り越え、家族全体で楽しむことが出来るものとなっている。

派遣される立場であれ、受け入れる立場であれ、いずれも人対人のつながりは、夫々に私たちが持つ感性に強く影響する。

これらの事は、ゲームでの疑似体験とは異なり、五感に訴えかけるものと信じている。

私たちは、これからも今まで以上の成果を得るべく、継続すべきもの、変えるべきものを考えて、試行錯誤を繰り返すことになるだろう。

【シリーズ】

■賛助会のあゆみ(第3回)

賛助会 副会長
近江 廣之

1986年(昭和61年4月から62年3月)より、賛助会の事業は地区協議会の協力を得て、地区ラリーの会場での売店運営、第1回のゴルフコンペ、第2回の地区ニューイヤーパーティーでのアトラクション、地区広報紙「たまがわ」への一般広告への掲載など次々実施することができました。

そして最大のイベントは、伊奈事務局長(当時)の発案で「第1回 ビッグバンド DE ダンス '87」を2月に開催したことであります。当時、国内では最も有名なビッグバンドの一つである



「原信夫とシャープス・アンド・フラッツ」の生演奏でダンスパーティーを開くと言う画期的な発案であり

ました。

初めての企画で理事の方々には頭と体をフル回

転で進めて行きました。まずは会場探しからでした。当時、武蔵小杉にあった「中小企業婦人会館」の大ホールが木の床貼りでダンスが可能とのことがわかりこの会場に決定しました。



次にチケットの作成を300枚として、販売価格、販売ルート、どのように販売するかなどの問題、会場の下見とセッティング、そして軽食のメニューを決めました。

理事会の人だけでは運営スタッフが足りないので地区委員会へ奉仕の方を依頼するなどして運営を行いました。一般の方がお客様ですので、色々なことを想定しての準備は大変でしたが、新しいことにチャレンジしていることが楽しく、そして運営のノウハウを得ることができました。

この結果、当時の石井会長や伊奈事務局長を中心



背景のデザイン・照明などはすべて川崎地区関係者による製作でした



に理事の方々、奉仕の方々の力が一つになり、2回目もやりましようと言うことになりました。第2回は同じく国内でトップバンドの一つである「ブルーコーツ」を呼び、会場の準備、チケットの販売も初年度に比べスムーズに進めることができ、この実績からこの二つのバンドを交互にお願いすることにしました。その後も毎年2月に開催を重ねましたが、1993年2月20日開催の第7回をもちまして「ビッグバンドDEダンス」の行事は終了することになりました。この行事によって一般の方々がボーイスカウト活動を少しでも理解していただくと共に、ダンスを楽しんでいただけたという満足感、神奈川連盟の理事長やアメ

リカ大使館のボーイスカウト隊関係者の方々も何回かご招待できましたこと、また奉仕の隊指導者やローバースカウトが毎回約20名もお手伝いいただいたことへの感謝の念を強く持ちました。

このような活動を通して、賛助会第一次5ヶ年計画の1100万円を達成することができました。

■賛助会員の分布(2017年11月22日現在)

- ・準会員：12名
- ・個人会員：101名
- ・団体会員：25団体(内11法人含む)

■昔の写真を探しています

賛助会草創期の活動に関する写真を探しています。ダンスパーティー、アゼリアカップ(ゴルフコンペ)、ニューイヤー・パーティ等の写真をお持ちの方は事務局へ是非ご提供ください。プリントの写真の場合はスキャンした後ご返却いたします。是非皆様のご協力をお願いいたします。

■会員募集

賛助会は随時会員を募集しております。青少年育成にご理解とご支援をいただける方の参加を歓迎いたします。

◆賛助会員の種類と会費

- ・準育成会員(年会費) 一口 2,000円
- ・個人会員(年会費) 一口 5,000円
- ・団体会員(年会費) 一口 10,000円

なお、個人会員ならびに団体会員には当会の審議事項に関し議決権を有しますが、準会員につきましては議決権はございません。入会に関するお問い合わせならびにお申込み、ご意見・ご希望は下記へご連絡ください。なお、お申込み用紙は下記ホームページからもダウンロードできます。

【お問い合わせ】

- ・賛助会事務局(会員担当：鈴木)

E-mail : sanjokai@scout-kawasaki.org

【賛助会ホームページ】

<http://www.scout-kawasaki.org/sanjokai/index.html>

当会のホームページでは本誌「ブーメラン」のバックナンバーも閲覧ならびにダウンロードできます。



●編集後記

本誌「ブーメラン」も早いもので第4号となり、皆様に賛助会の活動をお伝えできていれば幸いです。2019年にはBaltimore市と川崎市は姉妹都市提携40周年を迎える。今回は当会が支援している「ボルチモア-川崎 姉妹都市スカウト交流」を広く知っていただくこと、同様にこれを現地で支援して下さっている「ボルチモア川崎姉妹都市委員会」とその関係者の方々をご紹介することができた。先人たちが若者にチャンスを与えたいと発案し、伝承されているこの事業、まさに継続は力なりだ。(H)